

平成 23 年 7 月 吉日

関係者のみなさまへ

福島原発による放射能汚染を乗り越えるための
除染事業「大豆・ひまわり・菜の花プロジェクト」へのご支援
をお願いします。

プロジェクト事業本部
NPO 法人 民間稲作研究所
理事長 稲葉光國

拝啓

時下益々ご健勝のことと存じます。常日頃より当会の活動にご理解とご支援を賜り、深く感謝申し上げます。

さて、すでにお聞き及びのことと存じますが、この度の東日本大震災により東日本の農業は大きな打撃を受けてしまいました。特に福島原発に近い浜通りで、食の安全と環境の再生に勤しんできた当会の有機農業者にとって、その打撃ははかり知れないものがあります。農地を奪われ、肉親を奪われ、清らかな大地を奪われた会員農家を筆頭に、原発 150 キロ圏内の農地はそのほとんどが放射能で汚染され、有機農業の継続が危ぶまれる状態となってしまいました。

栃木県に本部を置く当会は、附属農場を基盤に、別紙のような除染事業を開始し、経営を維持しながら除染をすすめるシステムの構築にとりかかりました。5年後には、地域全体に除染事業を広げながら清らかな大地をとり戻す、確実な見通しを打ち立てたいと願っています。

プロジェクト推進農家の第 1 号は当会の附属稲葉農場が担い、技術的な問題を解決してまいります。第 2 号からは本格的な除染事業体として福島全域や栃木県北部に事業体を建設し、植物油とメタンガスエネルギー、有機質肥料などの生産連合体として、放射能除染と食・エネルギーの地産地消を実現したいと願っております。

この壮大な無謀とも言える事業は、多くの方々のご支援抜きには実現するものではありません。本来は国や地方公共団体が実施すべきことと思われる方々も多いかと存じますが、それでは地域農業の再建は不可能です。地域の農業者が自らの意思で進めることが第一であり、それを支援する自治体や国の政治があって初めて成功できるものと思います。

以上のような、私どもの志をおくみ取りいただき、別紙の方法にて多くの方々からのご支援をいただけますよう、心からお願い申し上げます。

敬具